

## 後期の連携開設科目がスタートしました ～「データ科学のための基礎数学」「地域文化論」

今年度から本格実施となったSPARC教育プログラム。前期の「データ科学と社会Ⅱ」「地域学」「知的財産入門」に続いて、後期は、山口大学から提供を受ける「データ科学のための基礎数学」と、本学から提供する齊藤先生の「地域文化論」がスタートしました。

「データ科学のための基礎数学」は、山口大学の宇田新介先生が担当される科目です。授業に先立ち、データ科学の発達の経緯や社会生活との関連性、データ科学における数学の役割などの説明がありました。2回目以降の授業では、高校で学習する数学について振り返りつつ、方程式、不等式、関数、ベクトル、行列、微分・積分などを学びます。

「地域文化論」は国際文化学部情報社会学科の齊藤先生が担当する科目です。地域文化に対する知識を身につけることを目的とし、地域の文化的豊かさを発見する手法について具体的な事例を交えて学びます。第1回目の授業では「地域文化とは何か」について学生同士が意見を出しながら考えました。第2回目以降の授業では、例えば「賑わう」といった状態はどのようなものかについて学生各自で考え、本学と山口大学の学生がそれぞれ意見を発表するなど、他大学の学生の意見を直接聞くことのできる機会となりました。

今年度の連携開設科目は前期に3科目、後期に2科目が実施されますが、来年度からは前期6科目、後期4科目の計10科目が実施される予定です。本学からは「地域学」「地域文化論」に加えて「デザイン思考論」「コミュニティデザイン論」の合計4科目を提供することとなります。



データ科学のための基礎数学



地域文化論

## SPARC事業の中間評価が実施されました

今年度はSPARC事業の折り返し点に当たります。このため、10月1日に日本学術振興会による「地域活性化人材育成事業（SPARC）中間評価現地調査」が実施されました。

最初に、山口大学の松野副学長から事業の概要、進捗状況、今後の展望に関する説明が行われ、委員4名による質疑応答が行われました。ルーブリック評価における学びの変化の分析方法や、産業界が求める人物像とアセスメントの関係、PBL合同発表会と大学間交流、事業終了後の予算と継続性などについて質問が寄せられ最後の講評では以下の意見が述べられました。

- 協働機関との話の中で、県、市、企業・銀行も熱心で有意義な取組みだと高く評価していた。3大学のSPARC事業に期待しており、一緒になって推進していきたいという決意をいただいた。その際に、DXによるPBLの実践については、教員サイドの教育力や資質を高める必要があるということが課題としてあった。
- 実施体制、これまでの取組のスピード感、実効性、今後の事業の継続性、いずれも大きな問題はなく、モデル的な取組みだと言える。
- 協働機関との話の中で、PBLに協力的な企業も多いということを知ったし、自治体の後押しも確認できたので、全体的に良い現地調査になった。
- 今後は、若者の地元の定着の段階に移るとのことであるが、学生の意見を聞きつつ、地元の企業、自治体のニーズを把握して、これまでの取組を深化させていただきたい。
- 学生の意見や協働機関の話を知って、事業が包括的に進んでいるのだと感じたので、有意義な調査であった。

## SPARCサマースクール@宮崎

SPARC事業に採択された6つの地区の関係者を対象に、9月19日、20日の両日、宮崎市において「SPARCサマースクール@宮崎」が開催されました。今回のテーマは「学生の学びと地域連携を両立させる大学の関わり方と、地域との協働のあり方を考える」で、基調講演と2つの分科会ワークショップが行われました。

分科会ワークショップでは、「学生の教育視点」と「事業の持続視点」のテーマから、SPARC事業の自走化・持続化に向けて学生の学びと地域連携をいかに両立させるか、そのために大学教職員がどう関わり、地域と連携を築いていくべきか、について議論を行いました。このサマースクールには本学から国際文化学部の西田学部長、情報社会学科の吉永先生、今村先生、大高先生が参加しました。



## 企業と連携した授業を実施します



国際文化学部の後期授業では、行政・民間企業と連携した授業を行うこととしています。山口市と締結した「大学生を対象とした地域課題解決に向けたDX人材育成業務」にもとづいて、DX人材育成に向けた短期集中型の教育カリキュラムをNTT西日本株式会社と構築するものです。具体的には、「情報社会Ⅳ(環境)」と「情報社会Ⅴ(経済)」において、NTT西日本グループ企業の有する専門性・独自性の高い先端技術への知見を活用した授業を行っています。

11月7日の「情報社会Ⅳ(環境)」では、NTT西日本・地域創生Coデザイン研究所から2名の講師を迎え、well-being指標を活用して地域の特性を見るときはどういうことか、そしてそれはスマートシティが求められる背景とどのように関連するのかについて学びました。

また、「情報社会演習」「国際文化演習」では、県がサテライトオフィスに誘致した株式会社フォルウムが、2回（11月20日、27日）に渡って、視覚的な操作でアプリケーションを開発する手法－ノーコード、ローコード－について授業を行います。

「情報社会(環境)」の授業

## 2026年度から「高校生向けの先取り履修」が始まります

2026年度から実施する高校生の先取り履修は、高等学校等に在学する生徒に対して3大学が取り組んでいるSPARC教育プログラムの履修機会を提供することによって、本学への興味や生徒自らの学習意欲を高めるために実施するものです。

- 1 対象者 高等学校等に在学する生徒
- 2 入学の時期 令和8年度前期又は後期
- 3 履修科目 「データ科学と社会Ⅰ（1単位）」…山口大学が提供（オンラインと対面を予定）  
「地域文化論（2単位）」…本学が提供（オンデマンドを予定）
- 4 成績評価 授業中に行う試験やレポート等により総合的に評価
- 5 単位の授与 所定の成績を収めた場合は単位を授与し、修得した単位は3大学のいずれかに入学した場合、原則として単位認定される予定です。

本学から提供する「地域文化論」について紹介するPR動画やウェブサイトでの紹介記事・チラシの準備をしています。

### 編集後記

記事でも紹介しましたが、SPARC事業が始まって折り返し点を過ぎ、「中間評価現地調査」が実施されました。4名の評価委員からは3大学の取組について、ポジティブなコメントをいただきました。大学生たちもインタビューを受け、高い評価を得ました。来年度は連携開設科目の実施が10科目となり、3大学連携の山口モデルがさらに広く周知されるよう取組を支援します。